

人間科学研究科

■ 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー ■

教育目標

大阪大学の教育目標を受けて、人間科学研究科は1978年に博士前期課程及び博士後期課程の大学院として発足して以来、人間と社会の現実を、行動学・社会学・人間学・教育学・グローバル人間学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、21世紀の日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。その目的の実現のため、

- 学際性：文系・理系という従来の専門分野の枠にとらわれずに横断的に思考し、多彩な学問領域の方法と成果を統合させ、教育・研究に取り組むこと。
- 実践性：実験・調査・フィールドワークという〈知〉の技法を洗練化し、現場と密接に結びついて研究課題の解明を希求する、問題発見・解決型の教育・研究に取り組むこと。
- 国際性：グローバル社会の中でも、〈知〉を創造するリーダーシップを発揮し、教育・研究活動の国際化に取り組み、グローバルスタンダードをより深化させていくこと。

という3つの理念を掲げ、各基本理念に沿った能力を備えた人材の育成を目指しています。博士前期課程では、高度な専門性を持つ職業人の養成や、博士後期課程に進学し研究者となるべき基礎の習得を目指しています。博士後期課程では、学位を取得して、研究者や大学教員となるための資質を涵養します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、人間科学研究科では、21世紀の日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目的とし、学際性、実践性、国際性という3つの理念に即した、以下にあげるような能力を修得した学生に学位を授与します。

- 日本及び国際社会に貢献する学際的で幅広い知識を十分に身につけている。
- 行動学、社会学、人間学、教育学、グローバル人間学のいずれかについて高度な知識を体系的に理解している。
- 現代社会やそこに生きる人間に深い関心を持ち、現代という未曾有の転換期の学問的・社会的要請に応えようとする意欲を持っている。
- 自ら設定した課題を実験・調査・フィールドワークなどによって解決する実践的能力を持っている。
- 自ら設定した課題についての専門的知識、及びそれを人間科学的手法により分析・考察できる研究スキルを修得している。
- 自身の研究で得た知見を日本及び世界に発信するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を持っている。

人間科学研究科はこれらの学生を、博士前期課程では高度な専門知識を備えた職業人として、博士後期課程では高度な専門知識に加えて、学際的かつ柔軟な視点を持つ専門研究者として学位を認定します。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学のカリキュラム・ポリシーを受け、人間科学研究科は、現代という未曾有の転換期に生きる、人間と人間が営む社会がかかえる諸問題を解決するために、グローバルな視点とローカルな知を融合する研究と実践をおこなうカリキュラム構成になっています。

- 「人間科学専攻」と「グローバル人間学専攻」の2つの専攻の学問全体を俯瞰できるよう、共通科目群を設定しています。
- 2つの専攻相互の科目群を履修することを推奨するカリキュラム構成となっています。
- 科学的・実証的・統計的なアプローチ、並びに人文学的・文献調査的・国際コミュニケーション重視の科目を体系化し、総合的に学ぶことを可能にするカリキュラムを提供しています。
- 幅広い学問領域の素養や、大学院学生にふさわしい教養を涵養するための高度副プログラム及び高度教養プログラムの授業を受けることができます。

博士前期課程と博士後期課程の一貫教育を基軸としています。博士前期課程では多様な講義・演習を履修しつつ修士論文を完成させます。博士後期課程では博士論文の完成を目指して、個々の研究課題に取り組むとともに、その取り組みを促進する特別演習・特別研究を履修します。

リーディング大学院(超域イノベーション及び未来共生イノベーター)の2つプログラムの科目にも参加することができます。

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学のアドミッション・ポリシーを受け、人間科学研究科は、人間や社会の全体的把握を目指す、総合科学としての人間科学に、より高い学術的な水準と、深遠な社会的意義を付加するために、1978年に博士前期課程及び博士後期課程の大学院として発足しました。人間科学という学問に求められる社会からの要請は、近年ますます多岐にわたり高度になってきています。このような社会的要請に応えるため、下記のような基礎学力や研究力を有する者を求めています。

- 博士前期課程の一般入試では、各分野で必要な専門知識、英語能力、研究計画・実施能力を筆記試験と口述試験で選抜します。
- 博士前期課程の社会人特別入試では、各分野で必要な専門知識と研究計画・実施能力を筆記試験と口述試験で選抜します。
- 博士後期課程の一般入試では、各分野で必要な高度な専門知識、外国語能力、研究計画・実施能力を筆記試験と論文考査で選抜します。
- 博士後期課程の社会人特別入試では、高度な研究計画・実施能力を、研究計画書及び修士論文、研究論文に基づく論文考査で選抜します。

人間科学研究科では、学際性・実践性・国際性を柱とする教育プログラムを充実させてきました。

博士前期課程では、つねに異領域の学問分野にも関心を向ける好奇心旺盛な態度、内外を問わず多様な実践的なフィールドに積極的に参加する行動力、グローバルな諸課題に積極的に関与しようとする意欲、ならびに高度な語学力を備え、世界に向けて発信できる能力を身につけたいと希求する学生を強く求めています。

博士後期課程では、博士前期課程からの進学者を対象とするだけでなく、人文科学・社会科学そして自然科学の多様な学問を探求する素地を持つ学生を積極的に受け入れます。同時に、高度な語学力、異領域へ強い関心や多彩な職業経験を有した者など、問題意識を明確に持った学生の入学によって、人間科学の幅の広がりや深化を希求しています。

人間科学研究科

学位プログラム「人間科学」

学位：修士(人間科学)

教育目標

大阪大学および人間科学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「人間科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「人間科学」では、1978年に博士前期課程および博士後期課程の大学院として人間科学研究科が発足して以来、人間と社会の現実を、行動学・社会学・教育学・グローバル人間学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、21世紀の日本および国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。これを研究科規程として「人間と人間の営む社会を科学的な視点及び方法で探究し、人間と社会に対する理解を深め、人間が人間らしく生きていける仕組みづくりに貢献できる知性と行動力を備えた人材を育成すること」としてきました。

その目的を実現するため、

- ・学際性：現代的課題を深く追究し解決へとつなげるために、文系・理系という従来の専門分野の枠にとらわれずに横断的に思考し、多彩な学問領域の方法と成果を統合させ、教育・研究に取り組むこと。
- ・実践性：実験・調査・フィールドワークという〈知〉の技法を洗練化するとともに、その研究課題の解明を希求する現場と結びついた問題解決型の教育・研究に取り組むこと。
- ・国際性：複雑化し激動するグローバル社会の中でも、知を創造するリーダーシップを発揮し、教育・研究活動の国際化に取り組み、グローバルスタンダードをより深化させていくこと。

という3つの理念を掲げ、各基本理念に沿った能力を備えた人材の育成を目指しています。博士前期課程においては、高度専門職業人の養成と、博士後期課程に進学し将来研究者を目指す人材を養成します。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および人間科学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「人間科学」では、人間と社会の現実を、行動学・社会学・教育学・グローバル人間学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、21世紀の日本および国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。その実現のため、学際性、実践性、国際性という3つの理念に即した、以下にあげるような能力を身につけ、さらに所定の期間在学し、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格した学生に修士の学位を授与します。修士論文の審査基準としては研究目的、研究方法、考察等の適切さだけでなく、学術的な独創性や重要性があり、社会的要請に応え

る可能性を持つことが求められます。

- ・日本および国際社会に貢献する学際的で幅広い知識を十分に身につけている。
- ・行動学、社会学、教育学、グローバル人間学の高度な知識を体系的に理解している。
- ・現代社会やそこに生きる人間に深い関心を持ち、現代という未曾有の転換期の学問的・社会的要請に応え、解決しようとする意欲を持っている。
- ・自ら設定した課題を実験・調査・フィールドワークなどによって解決する実践的能力を持っている。
- ・自ら設定した課題についての専門的知識、およびそれを科学的・実証的・統計的手法、ならびに人文的・文献調査的手法を用いて分析・考察できる研究スキルを修得している。
- ・自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力や技術、コミュニケーション能力を持っている。
- ・グローバルにコミュニケーションする能力を持ち、自身の研究で得た知見を日本および世界に発信する能力と意欲を持っている。

人間科学研究科はこれらの学生を、学際的かつ柔軟な視点を持つ専門研究者のほか、高度な専門知識を備えた職業人として認定し、グローバルな実践性と高度な「現実対話力」を備えた専門家として輩出します。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および人間科学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「人間科学」は、人間の行動・社会・教育を中心とした学際的研究によって、現代という未曾有の転換期の学問的・社会的要請にこたえることを目的とした「人間科学専攻」と、地球規模の課題に対してグローバルな視点とローカルな知を融合する研究と実践をおこなう「グローバル人間学専攻」から成っています。この2つの専攻は横断的に学際的に学問全体を俯瞰できるよう、「コンフリクトの人文科学」「インターンシップ」「キャリアデザイン」などの共通科目群を設定しているほか、相互の科目群を履修することを推奨するカリキュラム構成となっています。

そして本研究科では、科学的・実証的・統計的なアプローチ、並びに人文的・文献調査的・国際コミュニケーション重視の科目を体系化し、人間と社会の諸側面について総合的に学ぶことを可能にするカリキュラムを提供しています。さらに、幅広い学問領域の素養や、大学院学生にふさわしい教養を涵養するための高度副プログラムおよび高度教養プログラムの授業を受けることができます。

博士前期課程では、人間行動学・行動生態学・社会環境学・基礎人間科学・臨床教育学・教育環境学・人間開発学・地域研究の8つの大講座に加えて、新たな研究領域を創出する先端人間科学講座が多様な講義・演習をラインナップし、さらにフィールドワーク実習と研究方法の深化を追究する科目群を整備しています。また「臨床心理士」を養成するコースや「専門社会調査士」を取得するための科目も整備されています。また平成24年度からは、リーディング大学院(博士課程教育リーディングプログラム)の発足に伴い、超域イノベーションおよび未来共生イノベーターの各プログラム科目も併せて履修できる体制を整えています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

人間科学研究科
全体のマップ



人間科学研究科 先端人間科学系 カリキュラムマップ

学習目標：専門性と学識、デザイン力、教養、国際性、学際性、実践性

M2

修士論文【専門性】

M1

特定演習・実習・特定研究【デザイン力・実践性】

生命と社会システム特定演習Ⅰ・Ⅱ
コミュニケーションメディア特定演習Ⅰ・Ⅱ
心と脳の科学特定演習Ⅰ・Ⅱ
減災人間科学特定演習Ⅰ・Ⅱ
各講座フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ
各講座方法実習Ⅰ・Ⅱ
各講座特定研究Ⅰ・Ⅱ

高度副プログラム・
知のジム
ナスティックス(高度
教養プログラム)

【教養・専門
性・学際性】

講義科目【専門性】

生命と社会システム特講Ⅰ
生命と社会システム特講Ⅱ
コミュニケーションメディア特講Ⅰ
コミュニケーションメディア特講Ⅱ
心と脳の科学特講Ⅰ
心と脳の科学特講Ⅱ
ボランティアの集団力学特講

共通科目・他の学系講義科目および特定演習・
高度教養科目・他研究科の授業科目
【教養・国際性・学際性】

多文化医療通訳概論
コンフリクトの人文学特講Ⅰ・Ⅱ
フィールド調査法特講
フィールド調査・評価入門
医療通訳論Ⅰ・Ⅱ
人間科学専門演習Ⅰ・Ⅱ
コンフリクトの文明学特定演習Ⅰ・Ⅱ
社会における科学技術特定演習
人間科学方法演習
英語による論文作成・研究発表演習
人間科学基礎実習

人間科学研究科 行動学系 カリキュラムマップ

学習目標：専門性と学識、デザイン力、教養、国際性、学際性、実践性

学年

M2

修士論文【専門性】

M1

特定演習・実習・特定研究【デザイン力・実践性】

基礎心理学特定制習Ⅰ・Ⅱ 安全行動学特定制習Ⅰ・Ⅱ 比較行動学特定制習Ⅰ・Ⅱ
 応用認知心理学特定制習Ⅰ・Ⅱ 比較発達心理学特定制習Ⅰ・Ⅱ 各講座方法実習Ⅰ・Ⅱ
 社会心理学特定制習Ⅰ・Ⅱ 行動生理学特定制習Ⅰ・Ⅱ 各講座フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ
 臨床死生学・老年行動学特定制習Ⅰ・Ⅱ 行動統計科学特定制習Ⅰ・Ⅱ 各講座特定研究Ⅰ・Ⅱ
 環境心理学特定制習Ⅰ・Ⅱ 生物人類学特定制習Ⅰ・Ⅱ

高度副プログラム・
知のジレンマ
ナスティックス(高度
教養プログラム)

【教養・専門
性・学際性】

講義科目【専門性】

基礎心理学特講Ⅱ 基礎心理学特講Ⅲ 応用認知心理学特講Ⅱ 社会心理学特講Ⅱ 臨床心理学・老年行動学特講Ⅱ 安全行動学特講Ⅱ
 比較発達心理学特講Ⅱ 行動生理学特講Ⅱ 行動統計科学特講Ⅱ 生物人類学特講Ⅱ 比較行動学特講Ⅱ

講義科目【専門性】

基礎心理学特講Ⅰ 応用認知心理学特講Ⅰ 社会心理学特講Ⅰ 臨床心理学・老年行動学特講Ⅰ 環境心理学特講Ⅰ 安全行動学特講Ⅰ
 比較発達心理学特講Ⅰ 行動生理学特講Ⅰ 行動統計科学特講Ⅰ 生物人類学特講Ⅰ 比較行動学特講Ⅰ

共通科目・他の学系講義科目および特定演習・
高度教養科目・他研究科の授業科目
【教養・国際性・学際性】

多文化医療通訳概論 人間科学専門演習Ⅰ・Ⅱ
 コンフリクトの人文学特講Ⅰ・Ⅱ コンフリクトの文明学特定制習Ⅰ・Ⅱ
 フィールド調査法特講 社会における科学技術特定制習
 フィールド調査・評価入門 人間科学方法演習
 医療通訳論Ⅰ・Ⅱ 英語による論文作成・研究発表演習
 人間科学基礎実習

人間科学研究科 社会学系 カリキュラムマップ

学習目標：専門性と学識、デザイン力、教養、国際性、学際性、実践性

学年

M2

修士論文【専門性】

M1

特定演習・実習・特定研究【デザイン力・実践性】

社会学理論特定制習Ⅰ・Ⅱ 科学哲学特定制習Ⅰ・Ⅱ 各講座フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ
 現代社会学特定制習Ⅰ・Ⅱ 現代思想特定制習Ⅰ・Ⅱ 各講座方法実習Ⅰ・Ⅱ
 社会調査特定制習Ⅰ・Ⅱ 人類学特定制習Ⅰ・Ⅱ 各講座特定研究Ⅰ・Ⅱ
 コミュニケーション社会学特定制習Ⅰ・Ⅱ 政治経済の人類学特定制習
 文化社会学特定制習Ⅰ・Ⅱ 人間と文化特定制習Ⅰ・Ⅱ

高度副プログラム・
知のジレンマ
ナスティックス(高度
教養プログラム)

【教養・専門
性・学際性】

講義科目【専門性】

社会学理論特講 社会変動論特講 ジェンダー論特講 科学哲学特講 哲学的人間学特講 人間と文化特講
 現代社会学特講 経験社会学特講 比較福祉論特講Ⅰ 現代史総論特講 人類学理論特講

講義科目【専門性】

社会学説史特講 文化社会学特講 比較福祉論特講Ⅱ 人間科学基礎理論特講 行為と倫理特講 応用人類学特講
 計量社会学特講 社会保障政策論特講Ⅱ 市民活動論特講 認知システム論特講 比較文明学特講 政治経済の人類学特講
 コミュニケーション社会学特講 比較社会学特講 表彰・記号学特講 比較思想史特講

共通科目・他の学系講義科目および特定演習・
高度教養科目・他研究科の授業科目
【教養・国際性・学際性】

多文化医療通訳概論 人間科学専門演習Ⅰ・Ⅱ
 コンフリクトの人文学特講Ⅰ・Ⅱ コンフリクトの文明学特定制習Ⅰ・Ⅱ
 フィールド調査法特講 社会における科学技術特定制習
 フィールド調査・評価入門 人間科学方法演習
 医療通訳論Ⅰ・Ⅱ 英語による論文作成・研究発表演習
 人間科学基礎実習

人間科学研究科 教育学系 カリキュラムマップ

学習目標：専門性と学識、デザイン力、教養、国際性、学際性、実践性

学年

M2

修士論文【専門性】

M1

特定演習・実習・特定研究【デザイン力・実践性】

教育人間学特定演習Ⅰ・Ⅱ 教育社会学特定演習Ⅰ・Ⅱ 各講座フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ
 教育コミュニケーション学特定演習Ⅰ・Ⅱ 教育制度学特定演習Ⅰ・Ⅱ 各講座方法実習Ⅰ・Ⅱ
 教育心理学特定演習Ⅰ・Ⅱ 教育工学特定演習Ⅰ・Ⅱ 臨床心理実習Ⅰ・Ⅱ
 教育工学特定演習Ⅰ・Ⅱ 生涯教育学特定演習Ⅰ・Ⅱ 臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ
 臨床心理学特定演習Ⅰ・Ⅱ 教育文化学特定演習Ⅰ・Ⅱ 障害児・者心理学特講Ⅰ・Ⅱ
 臨床心理学査定演習Ⅰ・Ⅱ 各講座特定研究Ⅰ・Ⅱ

高度副プログラム・
知のジミ
ナスティックス(高度
教養プロ
グラム)

講義科目【専門性】

教育人間学特講Ⅱ 教育コミュニケーション学特講Ⅱ 臨床心理学特講Ⅱ 教育動態学特講 生涯教育学特講
 教育思想史特講 教育工学特講Ⅱ 臨床心理面接特講Ⅱ 学校社会学特講 ジェンダー教育学特講
 教育心理学特講

【教養・専門
性・学際性】

講義科目【専門性】

教育人間学特講Ⅰ 教育コミュニケーション学特講Ⅰ 心理療法特講 教育社会学特講 ジェンダー教育学特講
 外国教育史特講 教育工学特講Ⅰ 臨床心理学研究法特講 教育制度学特講 人権教育学特講
 教育哲学特講 臨床心理学特講Ⅰ 臨床心理面接特講Ⅰ 学校経営学特講 教育文化学特講
 人格心理学特講 臨床心理面接特講Ⅰ 日本教育史特講 コミュニティ教育学特講

共通科目・他の学系講義科目および特定演習・
高度教養科目・他研究科の授業科目
【教養・国際性・学際性】

多文化医療通訳概論 人間科学専門演習Ⅰ・Ⅱ
 コンフリクトの人文学特講Ⅰ・Ⅱ コンフリクトの文明学特定演習Ⅰ・Ⅱ
 フィールド調査法特講 社会における科学技術特定演習
 フィールド調査・評価入門 人間科学方法演習
 医療通訳論Ⅰ・Ⅱ 英語による論文作成・研究発表演習
 人間科学基礎実習

人間科学研究科 グローバル人間学系 カリキュラムマップ

学習目標：専門性と学識、デザイン力、教養、国際性、学際性、実践性

学年

M2

修士論文【専門性】

M1

特定演習・実習・特定研究【デザイン力・実践性】

地域秩序論特定演習Ⅰ・Ⅱ 人間環境論特定演習Ⅰ・Ⅱ 地域研究フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ
 国際社会開発論特定演習Ⅰ・Ⅱ 紛争復興開発論特定演習Ⅰ・Ⅱ 人間開発学フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ
 動態地域論特定演習Ⅰ・Ⅱ 超地域論特定演習Ⅰ・Ⅱ 各講座特定研究Ⅰ・Ⅱ
 地域知識論特定演習Ⅰ・Ⅱ 国際協力学特定演習Ⅰ・Ⅱ
 多文化共生社会論特定演習Ⅰ・Ⅱ

高度副プログラム・
知のジミ
ナスティックス(高度
教養プロ
グラム)

講義科目【専門性】

国際協力学特講Ⅱ 人間環境論特講Ⅰ 地域研究特講 動態地域論特講Ⅱ 地域知識論特講Ⅱ
 国際社会開発論特講Ⅱ グローバル人間学実践英語特講Ⅱ 超地域論特講Ⅱ

【教養・専門
性・学際性】

講義科目【専門性】

人間開発学特講 国際協力学特講Ⅰ 多文化共生社会論特講Ⅰ 動態地域論特講Ⅰ 地域秩序論特講Ⅰ
 グローバル人間学実践英語特講Ⅰ 紛争復興開発論特講Ⅰ 多文化共生社会論特講Ⅱ 超地域論特講Ⅰ 地域知識論特講Ⅰ
 国際健康開発論特講 国際社会開発論特講Ⅰ 人間環境論特講Ⅱ

共通科目・他の学系講義科目および特定演習・
高度教養科目・他研究科の授業科目
【教養・国際性・学際性】

多文化医療通訳概論 人間科学専門演習Ⅰ・Ⅱ
 コンフリクトの人文学特講Ⅰ・Ⅱ コンフリクトの文明学特定演習Ⅰ・Ⅱ
 フィールド調査法特講 社会における科学技術特定演習
 フィールド調査・評価入門 人間科学方法演習
 医療通訳論Ⅰ・Ⅱ 英語による論文作成・研究発表演習
 人間科学基礎実習

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および人間科学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「人間科学」は、「人間と人間の営む社会を科学的な視点及び方法で探究し、人間と社会に対する理解を深め、人間が人間らしく生きていける仕組みづくりに貢献できる知性と行動力を備えた人材を育成することを目的」としています。そのため、文理融合、その具体的側面としての学際性・実践性・国際性という教育プログラムを充実させてきた私たちは、つねに異領域の学問分野にも関心を向ける好奇心旺盛な態度、内外を問わず多様な実践的なフィールドに積極的に参加する行動力、グローバルな諸課題に積極的に関与しようとする意欲や能力、ならびに高度な語学力を備え、世界に向けて発信できる学生を強く求めています。

人間科学という学問に求められる社会からの要請は、近年ますます多岐にわたり高度になってきています。私たちは、博士前期課程から博士後期課程へと進む学生を対象とするだけでなく、人文科学・社会科学そして自然科学の多様な学問を探究する素地を持つ学生を積極的に受け入れることで、総合科学としての人間科学を発展させていきたいと考えます。同時に、多彩な職業経験を有し、問題意識を明確に持った学生の入学によって、人間科学の幅の広がりや深化を希求しています。そのためには、下記のような能力を入学前に修得していることが求められます。

- ・ 専門分野に関する基礎的知識
- ・ 実験や観察、フィールド調査などを行うためのしっかりとした研究方法
- ・ 調査結果や文献などを適切に分析しまとめる能力
- ・ 研究成果を発表するプレゼンテーションの技術や語学力

【入学者選抜の方針】

それぞれの専門分野における基本的学力はもとより、自分の研究や思考を他者に伝えることができる日本語での表現力、ならびに国際コミュニケーション力の土台となる外国語能力を求めます。したがって専門科目の筆記試験、外国語および口述試験で選抜を行います。社会人特別入試では、専門科目の筆記試験と口述試験を行います。

人間科学研究科

学位プログラム「人間科学」

学位：博士(人間科学)

教育目標

大阪大学および人間科学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「人間科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「人間科学」では、1978年に博士前期課程および博士後期課程の大学院として人間科学研究科が発足して以来、人間と社会の現実を、行動学・社会学・教育学・グローバル人間学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、21世紀の日本および国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。これを研究科規程として「人間と人間の営む社会を科学的な視点及び方法で探究し、人間と社会に対する理解を深め、人間が人間らしく生きていける仕組みづくりに貢献できる知性と行動力を備えた人材を育成すること」としてきました。

その目的を実現するため、

- ・学際性：現代的課題を深く追究し解決へとつなげるために、文系・理系という従来の専門分野の枠にとらわれずに横断的に思考し、多彩な学問領域の方法と成果を統合させ、教育・研究に取り組むこと。
- ・実践性：実験・調査・フィールドワークという〈知〉の技法を洗練化するとともに、その研究課題の解明を希求する現場と結びついた問題解決型の教育・研究に取り組むこと。
- ・国際性：複雑化し激動するグローバル社会の中でも、知を創造するリーダーシップを発揮し、教育・研究活動の国際化に取り組み、グローバルスタンダードをより深化させていくこと。

という3つの理念を掲げ、各基本理念に沿った能力を備えた人材の育成を目指しています。博士後期課程においては、グローバルな実践性を備えた専門家および将来研究者を目指す人材を養成します。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および人間科学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「人間科学」では、人間と社会の現実を、行動学・社会学・教育学・グローバル人間学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、21世紀の日本および国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。その実現のため、学際性、実践性、国際性という3つの理念に即した、以下にあげるような能力を身につけ、さらに所定の期間在学し、所定の単位を修得し研究科規程に定める試験に合格し、博士論文を提出した学生に博士の学位を授与します。博士論文の審査基準としては、国際的な学術水準及び学際的視点から見て、十分な独創性や重要性があ

り、社会的要請に応える可能性を持つことが求められます。

- ・日本および国際社会に貢献する学際的で幅広い知識を十分に身につけている。
- ・行動学、社会学、教育学、グローバル人間学の高度な知識を体系的に理解している。
- ・現代社会やそこに生きる人間に深い関心を持ち、現代という未曾有の転換期の学問的・社会的要請に応え、解決しようとする意欲を持っている。
- ・自ら設定した課題を実験・調査・フィールドワークなどによって解決する実践的能力を持っている。
- ・自ら設定した課題についての専門的知識、およびそれを科学的・実証的・統計的手法、ならびに人文的・文献調査的手法を用いて分析・考察できる研究スキルを修得している。
- ・自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力や技術、コミュニケーション能力を持っている。
- ・グローバルにコミュニケーションする能力を持ち、自身の研究で得た知見を日本および世界に発信する能力と意欲を持っている。

人間科学研究科はこれらの学生を、学際的かつ柔軟な視点を持つ専門研究者のほか、高度な専門知識を備えた職業人として認定し、グローバルな実践性と高度な「現実対話力」を備えた専門家として輩出します。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および人間科学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「人間科学」は、人間の行動・社会・教育を中心とした学際的研究によって、現代という未曾有の転換期の学問的・社会的要請にこたえることを目的とした「人間科学専攻」と、地球規模の課題に対してグローバルな視点とローカルな知を融合する研究と実践をおこなう「グローバル人間学専攻」から成っています。この2つの専攻は横断的に学際的に学問全体を俯瞰できるよう、「コンフリクトの人文科学」「高度副プログラム」などの共通科目を設定しているほか、相互の科目群を履修することを推奨するカリキュラム構成となっています。

そして本研究科では、科学的・実証的・統計的なアプローチ、並びに人文的・文献調査的・国際コミュニケーション重視の科目を体系化し、人間と社会の諸側面について総合的に学ぶことを可能にするカリキュラムを提供しています。さらに、幅広い学問領域の素養や、大学院学生にふさわしい教養を涵養するための高度副プログラムおよび高度教養プログラムの授業を受けることができます。

博士後期課程では、人間行動学・行動生態学・社会環境学・基礎人間科学・臨床教育学・教育環境学・人間開発学・地域研究の8つの大講座に加えて、新たな研究領域を創出する先端人間科学講座が多様な講義・演習をラインナップし、さらにフィールドワーク実習と研究方法の深化を追究する科目群を整備しています。また平成24年度からは、リーディング大学院(博士課程教育リーディングプログラム)の発足に伴い、超域イノベーションおよび未来共生イノベーターの各プログラム科目も併せて履修できる体制を整えています。

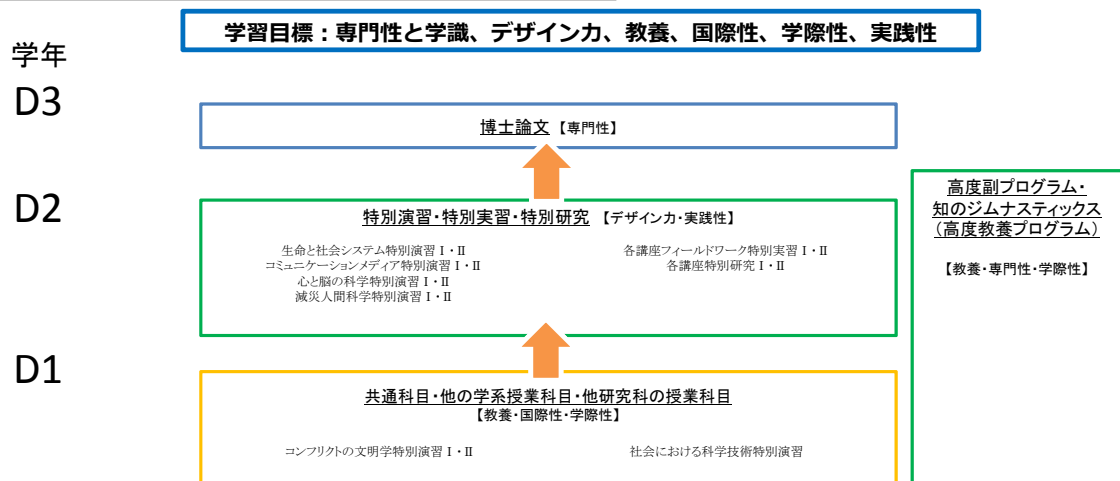
各学年の4月に研究計画書の提出を行い、翌年の2月に研究概要報告書の提出が求められ、各自の研究を進めていきます。最終学年では11月に論文題目届を行い、12月に博士論文を提出し、翌年の1月から2月にかけて公聴会を実施します。最終試験に合格すると博士の学位が授与されます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

人間科学研究科
全体のマップ



人間科学研究科 先端人間科学系 カリキュラムマップ



人間科学研究科 行動学系 カリキュラムマップ

学年

D3

D2

D1

学習目標：専門性と学識、デザインカ、教養、国際性、学際性、実践性

博士論文【専門性】

特別演習・特別実習・特別研究【デザインカ・実践性】

基礎心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 応用認知心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 社会心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 臨床死生学・老年行動学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 環境心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 安全行動学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 比較発達心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ

行動生理学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 行動統計科学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 生物人類学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 比較行動学特別演習Ⅰ・Ⅱ

各講座フィールドワーク特別実習Ⅰ・Ⅱ
 各講座特別研究Ⅰ・Ⅱ

共通科目・他の学系授業科目・他研究科の授業科目
 【教養・国際性・学際性】

コンフリクトの文明学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 社会における科学技術特別演習

高度副プログラム・
 知のジムナスティックス
 (高度教養プログラム)

【教養・専門性・学際性】

人間科学研究科 社会学系 カリキュラムマップ

学年

D3

D2

D1

学習目標：専門性と学識、デザインカ、教養、国際性、学際性、実践性

博士論文【専門性】

特別演習・特別実習・特別研究【デザインカ・実践性】

社会学理論特別演習Ⅰ・Ⅱ
 現代社会学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 社会調査特別演習Ⅰ・Ⅱ
 コミュニケーション社会学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 文化社会学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 福祉社会学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 科学哲学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 現代思想特別演習Ⅰ・Ⅱ

比較文明特別演習Ⅰ・Ⅱ
 人類学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 政治経済の人類学特別演習
 人間と文化特別演習Ⅰ・Ⅱ

各講座フィールドワーク特別実習Ⅰ・Ⅱ
 各講座特別研究Ⅰ・Ⅱ

共通科目・他の学系授業科目・他研究科の授業科目
 【教養・国際性・学際性】

コンフリクトの文明学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 社会における科学技術特別演習

高度副プログラム・
 知のジムナスティックス
 (高度教養プログラム)

【教養・専門性・学際性】

人間科学研究科 教育学系 カリキュラムマップ

学年

D3

D2

D1

学習目標：専門性と学識、デザインカ、教養、国際性、学際性、実践性

博士論文【専門性】

特別演習・特別実習・特別研究【デザインカ・実践性】
 教育人間学特別演習Ⅰ・Ⅱ 生涯教育学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 教育コミュニケーション学特別演習Ⅰ・Ⅱ 教育文化学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 教育心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ 各講座フィールドワーク特別実習Ⅰ・Ⅱ
 教育工学特別演習Ⅰ・Ⅱ 各講座特別研究Ⅰ・Ⅱ
 臨床心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 教育社会学特別演習Ⅰ・Ⅱ
 教育制度学特別演習Ⅰ・Ⅱ

共通科目・他の学系授業科目・他研究科の授業科目
 【教養・国際性・学際性】
 コンフリクトの文明学特別演習Ⅰ・Ⅱ 社会における科学技術特別演習

高度副プログラム・
 知のジムナスティックス
 (高度教養プログラム)
 【教養・専門性・学際性】

人間科学研究科 グローバル人間学系 カリキュラムマップ

学年

D3

D2

D1

学習目標：専門性と学識、デザインカ、教養、国際性、学際性、実践性

博士論文【専門性】

特別演習・特別実習・特別研究【デザインカ・実践性】
 国際協力学特別演習Ⅰ・Ⅱ 地域秩序論特別演習Ⅰ・Ⅱ
 紛争復興開発論特別演習Ⅰ・Ⅱ 地域知識論特別演習Ⅰ・Ⅱ
 国際社会開発論特別演習Ⅰ・Ⅱ 各講座フィールドワーク特別実習Ⅰ・Ⅱ
 多文化共生社会論特別演習Ⅰ・Ⅱ 各講座特別研究Ⅰ・Ⅱ
 人間環境論特別演習Ⅰ・Ⅱ
 動態地域論特別演習Ⅰ・Ⅱ
 超地域論特別演習Ⅰ・Ⅱ

共通科目・他の学系授業科目・他研究科の授業科目
 【教養・国際性・学際性】
 コンフリクトの文明学特別演習Ⅰ・Ⅱ 社会における科学技術特別演習

高度副プログラム・
 知のジムナスティックス
 (高度教養プログラム)
 【教養・専門性・学際性】

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および人間科学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「人間科学」は、「人間と人間の営む社会を科学的な視点及び方法で探究し、人間と社会に対する理解を深め、人間が人間らしく生きていける仕組みづくりに貢献できる知性と行動力を備えた人材を育成することを目的」としています。そのため、文理融合、その具体的側面としての学際性・実践性・国際性という教育プログラムを充実させてきた私たちは、つねに異領域の学問分野にも関心を向ける好奇心旺盛な態度、内外を問わず多様な実践的なフィールドに積極的に参加する行動力、グローバルな諸課題に積極的に関与しようとする意欲や能力、ならびに高度な語学力を備え、世界に向けて発信できる学生を強く求めています。

人間科学という学問に求められる社会からの要請は、近年ますます多岐にわたり高度になってきています。私たちは、博士前期課程から博士後期課程へと進む学生を対象とするだけでなく、人文科学・社会科学そして自然科学の多様な学問を探究する素地を持つ学生を積極的に受け入れることで、総合科学としての人間科学を発展させていきたいと考えます。同時に、多彩な職業経験を有し、問題意識を明確に持った学生の入学によって、人間科学の幅の広がりや深化を希求しています。そのためには、下記のような能力を入学以前に修得していることが求められます。

- ・ 専門分野に関する深い知識
- ・ 実験や観察、フィールド調査などを行うためのしっかりとした研究方法
- ・ 調査結果や文献などを適切に分析しまとめる能力
- ・ 研究成果を発表するプレゼンテーションの技術や語学力

【入学者選抜の方針】

それぞれの専門分野における基本的学力はもとより、自分の研究や思考を他者に伝えることができる日本語での表現力、ならびに国際コミュニケーション力の土台となる外国語能力を求めます。したがって学力試験、論文等の考査、成績証明書等を総合して入学者選抜を行います。社会人特別入試では、提出された研究計画書や修士論文・研究論文に基づく口頭試問により選抜します。